

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年2月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2874600188		
法人名	医療法人甲有会		
事業所名	医療法人甲有会 グループホームこころ		
所在地	兵庫県豊岡市但東町中山679-1 (電話)0796-56-1166		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年1月15日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】 平成19年12月1日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	38412		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤14人, 非常勤11人, 常勤換算16.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	13,100 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(111,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年12月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護1	2	要介護2	7		
要介護3	2	要介護4	5		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 81.19 歳	最低	63 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊岡市立資母診療所
---------	-----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

恵まれた自然の豊かさと、地域の人とのふれあいが人の心を安げる環境の中にある施設である。室内の窓は自然光が差し込み防音・耐寒のために二重窓になっている。室内は換気もよく適温に調節され、居心地のよい安らぎの共用空間となっている。共用空間の畳の部屋にはコタツを置き利用者が顔を見合わせながら楽しく過せるようになっている。日常生活においては、一人ひとりの思い・力量に合わせ個々の役割を發揮しながら利用者主体の生活ができるように支援している。日常的な会話・入浴・排泄に関して高齢者の尊重・プライバシーに配慮がなされている。かかりつけ医・認知症の専門医への受診同行・個人的な買い物・かかりつけ美容院への同行・過去に住んでいた場所への訪問同行等、要望に応じた対応を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価結果を全職員に回覧し、評価結果を踏まえ、各種マニュアルの整備・改善へ向けて職員全体で取り組んでいた。今回の自己評価は職員主導で実施した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価は職員主導で実施した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。内容は、グループホームの課題についての意見交換、率直な意見・助言等をもらえる場になっている。小学校の教頭先生、家族の参加が増えてきており、家族からの意見もいただけるようになってきている。運営推進会議の結果は職員にも報告し、運営推進会議での意見・助言をサービスの質向上に活かしていくことが望ましい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	ご家族からは面会時に相談を受けている。意見、苦情、不満への対応は迅速に行い事業所で解決困難な場合は関係機関に相談している。苦状対応マニュアルは、基準が定められ、手順を分かりやすく明示し、職員全体が統一した対応できるようになっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	地元の隣保会に加わり、行事への協力・参加等地域との交流の機会がある。近隣の方から野菜を頂いたり、小学校へ利用者が縫った雑巾を配布するなど自然な形で交流の機会を持っている。今後は、グループホームから地域へ認知症に関して研修講師派遣・認知症高齢者家族相談に答えるなど、地域への還元についての検討を期待する。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域に根ざした理念が具体的な言葉で見やすい位置に雰囲気損なうことなく掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についての研修を実施している。また職員会議の場で理念について話し合う機会を持っているが、職員一人ひとりについて、理解の度合いに違いがあるように感じている。		業務を実施していく中で理念の中に含まれている内容を理解し業務に反映させることが望ましく、また、グループワークなどを実施し共有していくことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の隣保会に加わり、行事への協力・参加等地域との交流の機会がある。近隣の方から野菜を頂いたり、小学校へ利用者が縫った雑巾を配布するなど自然な形で交流の機会を持っている。		今後は、グループホームから地域へ認知症に関して研修講師派遣・認知症高齢者家族への相談に答えるなど地域への還元についての検討を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価結果を全職員に回覧し、評価結果を踏まえ各種マニュアルの整備の実施改善へ向けて職員全体で取り組んでいた。今回の自己評価は職員主導で実施した。		今後は、改善・検討課題を全職員で話し合い、改善を計画的に実施、評価修正を行っていくことが望まれる。経験者が増えており、職員数も増加してきていることから各種委員会などを立ち上げ職員主導での継続的な実施が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に1回実施しグループホームの課題についての意見交換、率直な意見・助言等をもらえる場になっている。小学校の教頭先生、家族の参加が増えてきており、家族からの意見もいただけるようになってきている。</p>		<p>運営推進会議の結果は職員にも報告し、運営推進会議の意見・助言をサービスの質向上に活かしていくことが望ましい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>健康福祉課に申請や相談に出向いて話し合う機会を持っている。地域で開催される研修会には参加し、交流を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご利用者ごとに写真入の生活状況・身体状況等の報告を書面にて定期的に行っている。書面の内容はホームでのご利用者の状況が理解し易くなっている。また家族の来訪時にも情報を提供している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族からは面会時に相談を受けている。意見、苦情、不満への対応は迅速に行い事業所で解決困難な場合は関係機関に相談している。苦状対応マニュアルは、基準が定められ、手順を分かりやすく明示し、職員全体が統一した対応できるようになっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設から退職者はいない。ユニット間の職員の交流を行い、利用者とのなじみの関係作りに配慮している。各ユニット職員間の情報提供の徹底を図っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個別の外部研修参加状況が把握できるように一覧表にまとめている。地域ケアスタッフ研修など外部研修に積極的に参加出来るように取り組んでいる。</p>		<p>全職員が地域密着型サービスの質の向上を目指していけるように、施設内研修の年間計画を立案し、確実に勉強会が実施できる取り組みが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括の会議にも参加し交流に取り組んでいる。</p>		<p>他の同業者との交流を図り、情報交換・勉強会・実習等で連携をとり、お互いの施設運営の向上を図る取り組みを期待する。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご利用開始までに利用者・家族から心身の状況を把握し、事前見学や体験入居時にコミュニケーションを十分取り、馴染んだ時点で入居に至るように配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	年々出来ることが少なくなってくる中で入居者の趣味・特技等、家族から聞き取った情報を活かし、その人らしく過ごせるように理念を基に生活の場面を設定、取り組んでいる。日常的に職員と接する中で残存機能を確認しながら力量に応じた役割を尊重し一人ひとり、自主性をもって楽しく過ごしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常接する中で入居者一人ひとりの思いを会話・行動の中から把握している。把握した事柄を詳細に記録に残し個別ケア計画に取り入れている。記録・ケア計画を職員間で共有し、自立した生活が送れるよう支援している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初期アセスメント・家族協力によるモニタリングをもとに、個別具体的なサービス計画書を作成、職員会議を通し評価修正をし、ケアの実践に取り組んでいる。		毎月利用者一人ひとりの個別ケアシート・個別事故防止案を参考に、計画立案している。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の身体・生活状況等日々の様子を個々の記録に記載し、職員間で共有し、家族の意見を取り入れながらサービス計画の見直しを行っている。</p>		<p>高齢者・特に認知症高齢者の計画の見直しは状況の変化がない利用者についても月1回程度の確認が望ましい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医・認知症の専門医への受診同行・個人的な買い物・かかりつけ美容院への同行・過去に住んでいた場所への訪問同行等、一人ひとりの要望に応じて支援を行っている。</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>施設と連携がとれている医療機関に定期的受診しているが、利用前からのかかりつけ医療機関への通院を継続するなど柔軟な受診体制がある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在まで看取りは行っていないが、ターミナルに移行しつつある利用者に関しては主治医の指示を得てケアを行なっている。ターミナルの指針を現在作成中である。ターミナルケアに対して経験の少ない職員も多く、職員を今後教育し対応をしっかりと行いたいと考えている。</p>		<p>重度化・看取りについての方針を、主治医・家族・施設が共通認識を持って取り組んでいくことが重要であり、医師や関係諸機関との十分な連携を図ることで職員の不安を軽減していくことが望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常的な会話、入浴、排泄に関して利用者一人ひとりの尊重・プライバシーに配慮しながら支援を行っている。プライバシーの研修は職員会議の中で折りに触れ行っており、新規職員の研修に現任者も参加し研修を行う予定である。個人が特定できる記録類は所定の場所で管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの意向を大切に、利用者主体の生活ができるよう、担当職員が毎月個別ケアシートで本人のニーズを把握し共有している。個々の生活のリズムを尊重し、利用者のペースに合わせた支援ができるよう配慮している。表出が困難な利用者には、日常接していく中で意向を汲み取り、家族の意見を参考にしながら支援に努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の好みを確認しながら、食材の買物・調理・後片付けなど利用者個々の状況により食事作りに参加をしてもらっている。近隣の住民の方からの届く新鮮な旬の野菜を取り入れ調理をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができ、入浴時間は入居者の希望に沿うようにしている。夜間入浴も可能である。ご利用者の状況により入浴剤を利用し入浴が楽しめるように取り組んでいる。個々の入居者の安全性・羞恥心などに配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力量を把握し生活の中で入居者個々の役割が発揮できるように支援しているが、利用者全員について、楽しみ・役割作りにつながっているかの振り返りを行っている。		高齢者、特に認知症高齢者は自分から楽しみごとを見つけ出すことが困難になっており、更に新しいことへの取り組みは不可能に近く、入所時のアセスメント・家族から聴取した利用者の生活歴・趣味を参考にしながら利用者の楽しみを提供する働きかけが望まれる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然に恵まれた地域であり、利用者の安全を見守りながら、自由な外出が出来る環境にある。個別で本人の状況・希望にあわせた外出を取り入れようと取り組んでいる。季節の花を見に行く、回転寿司を食べに行くなど個々の希望に添って、生活に変化が持てるような支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外、日中は玄関も含め施設全体の施錠は行っていない。安全性のためセンサーをつけるようにしてからは、一人で出かけて分らなくなることがなくなっている。職員は施錠することの弊害を理解している。外に出られない時は、ご利用者が自発的に運動をしていることがある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時の対応について地域消防団の方に鍵を預かってもらっている。ケアホーム開設時に地域へ協力依頼していく予定である。停電時にストーブの設置をしている。火災時の非難マニュアルは作成できている。</p>		<p>運営推進会議で災害時の地域住民の避難協力依頼をしておくことが望ましい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>嘱託の栄養士による栄養価集計表により(年4回)栄養バランスをチェックし献立に反映できる様にしている。栄養価集計表は全職員がチェックし栄養バランスの把握をしている。水分摂取にも配慮している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>親近感を感じさせる落ち着いた玄関の前庭は広々としている。自然光が差し込む窓は防音・耐寒のために二重窓になっている。室内は換気もよく居心地のよい安らぎの共用空間となっている。空調の調節により適温に調節され、気になる臭気も感じられない。共用空間の畳の部屋にはコタツを置き利用者が顔を見合わせながら楽しく過せるようになっている。廊下には一人で過せる椅子が設置されている。テーブルの置かれた共用空間からキッチンで調理する職員の姿、食器を洗う音・調理のにおいが漂い五感刺激につながっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮	自然光が差し込む居室には使い慣れたタンス等、日用品が持ち込まれ、清潔で、安心して過せる居室作りを支援している。また、利用者の好みや、馴染みの物などを置きその人らしさを感じられる。		

は、重点項目。